

課題申請書様式

プロトタイプ実証・実用化タイプ

(注)

- 様式上、斜字体で示している部分については申請書作成時に削除して下さい。

本申請の際の情報源(本内容は、選考には関係しません。)

今回の申請に関し、どのような手段で本公募の情報を入手されたかについて該当する項目の□内にし点を記入してください。今後の事業運営の参考とさせていただきます。
以下の中からお選びください(複数選択可)。

- JSTのホームページ
- ダイレクトメール
- JSTのHPにリンクするメール広告
- 公募説明会
- インターネットのバナー広告
- JSTのパンフレット(パンフレット名:)
- 技術フェアやシンポジウム等のブースから
- 所属機関からの回覧等
- 知人等からの紹介
- 新聞、雑誌の記事(雑誌名:)
- その他()

ご協力ありがとうございました。

(様式1)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

平成23年度 課題申請書(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

開発課題要旨

開発課題名 (20字程度)	
------------------	--

チームリーダー (企業)	氏名 所属機関 所属部署 職名	
サブリーダー (大学等)	氏名 所属機関 所属部署 職名	

開発期間	平成23年10月1日～平成**年3月31日
開発費	総額 : 百万円 平成23年度: 百万円 平成24年度: 百万円 平成25年度: 百万円 (JST支出額分のみを記入して下さい。)

開発課題概要(200字程度)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

実証・実用化開発しようとする機器(装置)について	
機器(装置)名称(仮称)	15文字程度で簡潔に
開発時期	既存のプロトタイプ機を開発した時期を記入 (例)平成16年4月～平成19年3月
機器(装置)仕様	数値を用いて具体的に (例)分解能0.1nm以下 測定時間10秒/サンプル以下 等
機器(装置)の原理・技術	基盤となる原理、技術を列挙して下さい。 (例)パルスレーザー技術、超伝導、X線結晶構造解析 等
測定対象(ニーズ)	対象分野・ユーザーを記入 (例)生体高分子、DNA、半導体デバイス、荷電粒子 等
波及効果	応用が期待される分野、産業等を記入 (例)量子コンピュータ、無侵襲医療、遺伝子治療 等
事業化計画	開発期間終了後、事業化に向けた具体的な計画を記入

照会先	
氏名 所属 TEL・FAX・E-mail	<u>開発課題の内容もしくは関連分野・技術について、最先端の開発状況(新規性、優位性、波及効果等)を良く御存知の方を2名挙げて下さい(ただしチームリーダー、サブリーダー、分担開発者を除く)。</u>
氏名 所属 TEL・FAX・E-mail	

(様式2)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

開発の概要

下記の項目1.～6.について、合計でA4用紙3～4枚程度で記述してください。

1. 開発課題名(20字程度)
2. 既存のプロトタイプ機の開発経緯・状況(基本となる制度・事業や技術シーズ・知見も記述)
3. 既存のプロトタイプ機の技術的課題
4. 実証・実用化開発の目標
5. 開発目標の達成を裏づける原理・技術の説明および開発する技術・装置の内容
既存のプロトタイプ機の性能、写真
6. プロトタイプ機の新規性・優位性

(様式3)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

開発計画

下記の項目1.～11.について、合計でA4用紙8～10枚程度で記述してください。

1. 開発実施体制

(図表を用いて分かりやすく記述してください。また、担当する機関と当該分担開発者の氏名も記述してください。また、ユーザーとしてどのような者が参画するかについても記載してください。)

2. 既存のプロトタイプ機から実用化開発に至るまでの具体的な開発項目とその進め方(分担開発者の開発内容、役割分担も含む)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

4. 開発スケジュールの詳細

(平成23年度)

作成した開発スケジュールに基づいて、実施する開発の詳細について年度毎に記述ください。

(平成24年度)

(平成25年度)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

5. 開発計画を実現する上で予想される問題点とその解決策

6. 開発を実施する上での知的財産権等の戦略的な取得の考え方

7. 標準化推進のための考え方(推進の予定がある場合のみ記述してください。)

8. ソフトウェアの開発に関する具体的な進め方

9. 倫理面の配慮(該当する場合のみ記述してください。)

10. 本タイプ終了後の事業化計画(開発した機器・装置の市場での優位性、市場規模、製品化の見通し、事業化に向けての実施体制、取り組み内容、スケジュール、販売目標等について、具体的に記述してください。)

11. 開発の成果によって期待される将来への寄与並びに社会への貢献の内容など(A4用紙半枚から1枚程度)

(様式4)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

開発経費

1. 費目別・年度別内訳

費目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
a. 物品費(設備備品費) 上段:JST/下段:企業				
※JST支出分 (内訳)				
※自己資金分(企業支出分) (内訳)				
b. 物品費(消耗品費) 上段:JST/下段:企業				
※JST負担分 (内訳)				
※自己資金分(企業支出分) (内訳)				
c. 旅費 上段:JST/下段:企業				
※JST負担分 (内訳)				
※自己資金分(企業支出分) (内訳)				
d. 人件費・謝金 上段:JST/下段:企業				
※JST負担分				

申請経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるものか、他の経費で措置されることがふさわしい内容となっていないか、購入を計画している開発設備等は、開発遂行上必要不可欠なものであるか等の申請経費の妥当性について判断するためのものです。
開発の遂行に必要な要望額を記入してください。なお、初年度については、開発開始時期を、平成23年10月1日と仮定して計上してください。

費 目	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	合計
(内 訳) ※自己資金分(企業支出分) (内 訳)				
e. その他(外注費) 上段:JST/下段:企業				
※JST負担分 (内 訳) ※自己資金分(企業支出分) (内 訳)				
f. その他(その他経費) 上段:JST/下段:企業				
※JST負担分 (内 訳) ※自己資金分(企業支出分) (内 訳)				
合計 上段:JST/下段:企業				

(注)「合計」欄には、各費目の合計額を記入してください。また、様式1の「開発費」欄及び様式3の「開発スケジュール(合計)欄」と金額の整合がとれているかを必ず確認してください。

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

2. 設備備品内訳

(1) 主な現有設備

設備名	仕様 製造会社名 型式	用途	使用 年数	主として 使用する 開発者	所有機関	備考

(2) リース・レンタルにより調達する主な設備(総費用が200万円以上のもの)

設備名	仕様 製造会社名 型式	用途	使用予定 年数	主として 使用する 開発者	使用機関	リース・レン タル予定時 期

(3) 購入予定の主な設備(購入価格が200万円以上のもの)

設備名	仕様 製造会社名 型式	用途	主として使用 する開発者	使用機関	納入予定 時期
					年 月

(様式5)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名

知的財産等について

1. プロトタイプ機に関する基本特許等の詳細について記載して下さい(数件以内)。

特許名称	
出願番号	
出願日	
出願人	
発明者	
分類	該当する番号を1つだけ記載してください。 A: 新しい原理や現象の発見に基づく研究成果に係わる特許 B: 機能性新規物質についての研究成果に係わる特許 C: 新規プロセス・方法に関する研究成果に係わる特許 D: 新規メカニズム・システムに関する研究成果に係わる特許

※) 基本的な知的財産権の出願人・発明者記載ページを含めて明細書を添付してください。
複数ある場合には、枠をコピーして記載してください。

2. 上記1. に記載した特許について先行文献調査を行い、その結果を簡潔にまとめて下さい。JSTにおいても、同じ検索式を使って先行文献調査の確認を行います。

項目	コメント等
1) 先行文献調査結果 提案課題の主要部分を含む 発明(特許出願)が A. 見出されなかった B. 部分的に見出された C. 見出された	<ul style="list-style-type: none">検索式: (例)「○○装置*□□化合物*▽▽方式」検索件数▲件 (※検索結果0件は不可) <p>①: 特許名称、出願人、出願日… ②: 特許名称、出願人、出願日…</p> <p>(例) ①は、×××の特徴を有するが、<u>本発明の◎◎とは異なり…である。</u> ②のシステムの一部は、本提案課題と類似技術を用いているが、システム全体は、まったく別の発想によって作られたものであり、本発明の技術とは根本的に異なる。</p> <p>※「他に先行技術が存在しない」、「これまでにない初めての技術」等</p>

	のコメントは不可。
2) 当該特許の補強の必要性 A 有 B 無	「有」の場合、想定している補強のポイントを箇条書きで記載ください。
3) 競合・類似技術の状況 (5, 6 行でまとめてください)	※「競合・類似技術は存在しない」、「これまでにない初めての技術」等のコメントは不可。 必ず、他の技術と比較しコメントを記載すること。
4) 競合・類似技術に対する優位性 (5, 6 行でまとめてください)	必ず、他の技術と比較し優位性に関するコメントを記載すること。

3. その他関連する重要なチームリーダー、サブリーダー、分担開発者等による論文等について記述して下さい。

最も重要で関連のある論文等をリストアップし、簡単な概要を記して下さい。

そのうち 3 報以内を参考文献として提出して下さい。提出される参考文献には●印をつけて下さい。

●参考文献1	論文名: タイトル 雑誌名、頁、年: J. of ○○○ Tech., vol. 3, 1234-1239, 2005 著者名: kagaku ichiro, gijutsu hanako
概要 200~300 文字程度	
●参考文献2	総説: タイトル ○○と産業(出版社) 2004, 321-333 著者名: 科技振子
概要	
●参考文献3	
概要	
参考文献4	
概要	
参考文献5	
概要	

(様式6)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

他制度での助成等の有無など

本様式に記載いただく内容は、研究資金の「重複提案の制限」や「過度の集中の排除」、および内閣府の保有する「政府研究開発データベース」への登録等に利用されることがあります。

1. 他制度での助成等の有無(申請中、申請予定も含む)

・チームリーダー(氏名:)

制度名	
課題名	
予算額	上記課題において、チームリーダーに助成される研究費の総予算額、および平成22年度および平成23年度に助成された(される)予算額について、判明している範囲で記載ください。
期間	
上記課題における役割	
本申請との関連性	

複数の制度で助成を受けている場合、欄を追加してください。

・サブリーダー(氏名:)

制度名	
課題名	
予算額	上記課題において、サブリーダーに助成される研究費の総予算額、および平成22年度および平成23年度に助成された(される)予算額について、判明している範囲で記載ください。
期間	
上記課題における役割	
本申請との関連性	

複数の制度で助成を受けている場合、欄を追加してください。

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

・分担開発者(氏名:)

制度名	
課題名	
予算額	上記課題において、分担開発者に助成される研究費の総予算額、および平成 22 年度および平成 23 年度に助成された(される)予算額について、判明している範囲で記載ください。
期間	
上記課題における役割	
本申請との関連性	

複数の制度で助成を受けている場合、欄を追加してください。

・ユーザー(氏名:)

制度名	
課題名	
予算額	上記課題において、分担開発者に助成される研究費の総予算額、および平成 22 年度および平成 23 年度に助成された(される)予算額について、判明している範囲で記載ください。
期間	
上記課題における役割	
本申請との関連性	

複数の制度で助成を受けている場合、欄を追加してください。

2. エフォート(専従割合)

本事業で提案が採択された場合の、チームリーダー、サブリーダー、分担開発者のエフォートを記載して下さい。

(記入例)

チームリーダー	〇〇 〇〇	〇〇%
サブリーダー	△△ △△	〇〇%
分担開発者	□□ □□	〇〇%

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

3. キーワード・分野

申請内容を理解する上で有効なキーワードを、「別添1:キーワード表」から最も近いと思われるもの5つ以内を選び“番号”と“キーワード”を記入してください。キーワード表に該当するものがない場合には、頭に“*”をつけ、独自にキーワードを記入してください。

(記入例) No.1 遺伝子、No.2 ゲノム、No.10 発生分化、* OOOO

開発課題が分類される研究分野について、「別添2:研究分野表」から最も近いと思われるものについて主分野は1個、副分野は1～3個以内を選び、“番号”と“研究区分”を記入してください。

(記入例) 主分野:No.101 ゲノム 副分野:No.102 医学・医療、No.104 脳科学

(様式7)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

開発チーム

チームリーダー (企業に所属する方)	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署・職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
	所属機関の同意	済み・調整中・未
サブリーダー(チームリーダーと他方の産と学・官に所属する方)	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署・職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
	所属機関の同意	済み・調整中・未
分担開発者	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署・職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
	所属機関の同意	済み・調整中・未
ユーザー	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署・職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
	所属機関の同意	済み・調整中・未

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

会計担当者 (中核機関)	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署 職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
契約担当者 (中核機関)	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署 職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	
事務連絡先 (中核機関) (チームリーダーでも可)	氏名 フリガナ 所属機関 所属部署 職名 郵便番号 住所 TEL FAX メールアドレス	

(注) 分担開発者は全員記述することとし、欄が足りない場合は「分担開発者」の欄を増やしてください。

(様式8)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名	
----------	--

開発者データ

*この様式は、チームリーダー・サブリーダー、分担開発者及びユーザーの全ての者について、各人ごとに作成してください。

1. 氏名(フリガナ)
2. 所属機関・所属部署・職名
3. 生年月日、年齢(平成23年4月1日現在)、性別
4. 研究者番号(府省共通研究開発管理システム(e-Rad)により取得したもの)

5. 最終学歴及び研究開発歴(主な職歴と研究開発内容)

(記入例)

昭和〇〇年 〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程修了

昭和〇〇年～〇〇年 〇〇大学〇〇学部助手

〇〇〇〇〇〇について研究を行い、〇〇〇〇〇の要素技術を構築

昭和〇〇年～〇〇年 〇〇研究所 研究員

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇に関する研究開発に従事し、〇〇〇〇〇装置を製作

平成〇〇年～〇〇年 〇〇大学〇〇学部教授

〇〇〇〇について研究を行い、民間企業と共同で〇〇〇〇〇システムを完成

6. 主要文献

開発課題の内容に限り、近年に学術誌等に発表した論文、著書等のうち重要なもの5件程度を選んで、現在から順に発表年次を過去に遡って記入して下さい。開発者が筆頭著書のものについては頭に*印を付けて下さい。

【記載項目】

著者(著者は全て記入して下さい。)・発表論文名・掲載誌・巻号・ページ・発表年)

(様式9)

(プロトタイプ実証・実用化タイプ)

チームリーダー名

企業概要(中核機関のみ提出)

平成23年 月 日

Table with 10 main rows and 7 columns for financial ratios. Rows include: 企業名, 本社所在地, 工場, 役員, ホームページ, 事業内容, 主要株主, 主要取引銀行, 関係会社, 研究開発実績, 経営状況と見通し, JST等との関係, 決算期, 財政状態, 経営状態, 財務比率分析.

単位は変えないように。

特記事項	
------	--

注) 経常利益率①は対売上高、経常利益率②は対総資産、研究開発費率③は対売上高で記入ください。

注) 決算報告書(直近1期)又は有価証券報告書(直近1期)も必ず1部、簡易書留又は宅配便にて提出してください(この場合、様式1の写しも必ず同封してください)。